

(案)

## 天神川水系大規模氾濫時の減災対策協議会

## 天神川水系大規模氾濫時の減災対策協議会 規約

(名称)

第1条 本会は、水防法（昭和24年法律第193号）第15条の9の規定に基づき組織することとし、「天神川水系大規模氾濫時の減災対策協議会」（以下「協議会」という。）と称する。

※この協議会で対象とする天神川水系とは、一級水系天神川のうち、天神川、小鴨川、国府川、三徳川の直轄管理区間を示す。

(目的)

第2条 天神川水系における堤防の決壊や越水等に伴う大規模な浸水被害に備え、隣接する市町や県、国等が連携・協力して、減災のための目標を共有し、ハード対策とソフト対策を一体的かつ計画的に推進し、社会全体で洪水に備える「水防災意識社会」を再構築することを目的とする。

(協議会の実施事項)

第3条 協議会は、次の各号に掲げる事項を実施する。

- 2 洪水の浸水想定等の水害リスク情報と、現状の減災に係る取組状況等の共有
- 3 円滑かつ迅速な避難、的確な水防活動及び円滑かつ迅速な氾濫水の排除を実現するために各機関がそれぞれ又は連携して取り組む事項をまとめた「地域の取組方針」の作成・共有
- 4 「地域の取組方針」に基づく対策の実施状況のフォローアップ
- 5 その他、大規模氾濫に関する減災対策に関して必要な事項

(協議会)

第4条 協議会は、別表1に掲げる委員をもって構成する。ただし、必要に応じ委員を追加することができる。

- 2 協議会は、第1項によるもののほか、必要に応じて委員以外の者の出席を要請し、意見を聴くことができる。

(幹事会)

第5条 協議会の円滑な運営を行うため、協議会の下に幹事会を置く。

- 2 幹事会は、別表2に掲げる委員をもって構成する。ただし、必要に応じ委員を追加することができる。
- 3 幹事会は、第2項によるもののほか、必要に応じて委員以外の者の出席を要請し、意見

を聴くことができる。

(会議の公開)

第6条 協議会は、原則として報道機関を通じて公開とする。ただし、審議内容によっては、協議会に諮り、非公開とすることができる。

2 幹事会は、原則非公開とし、幹事会の結果を協議会へ報告することにより、公開と見なす。

(協議会資料等の公表)

第7条 協議会に提出された資料等については、速やかに公表するものとする。ただし、個人情報等で公表することが適切でない資料等については、協議会の了解を得て公表しないものとする。

2 協議会の議事については、事務局が議事概要を作成し、出席した委員の確認を得た後、公表するものとする。

(事務局)

第8条 協議会の庶務を行うため、事務局を置く。

2 事務局は、中国地方整備局倉吉河川国道事務所及び鳥取県県土整備部河川課が共同で行う。

(雑則)

第9条 この規約に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項については、協議会で定めるものとする。

(附則) 本規約は、平成28年7月12日から施行する。(第1回協議会の日)

本規約は、平成30年2月8日 一部改正 (第4回協議会の日)

天神川水系大規模氾濫時の減災対策協議会 委員

(委員)

倉吉市長

三朝町長

湯梨浜町長

琴浦町長

北栄町長

鳥取県 危機管理局長

鳥取県 中部総合事務所県土整備局長

気象庁 鳥取地方気象台長

国土交通省中国地方整備局 倉吉河川国道事務所長

(事務局)

鳥取県県土整備部 河川課

国土交通省中国地方整備局 倉吉河川国道事務所

天神川水系大規模氾濫時の減災対策幹事会 委員

(委員)

倉吉市 防災調整監

三朝町 危機管理課長

湯梨浜町 防災担当参事

琴浦町 総務課 参事

北栄町 総務課長

鳥取県 危機管理局 副局長

鳥取県 中部総合事務所県土整備局 計画調査課長

気象庁 鳥取地方气象台 防災管理官

国土交通省中国地方整備局 倉吉河川国道事務所 河川副所長

国土交通省中国地方整備局 倉吉河川国道事務所 道路副所長

(事務局)

鳥取県県土整備部 河川課

国土交通省中国地方整備局 倉吉河川国道事務所